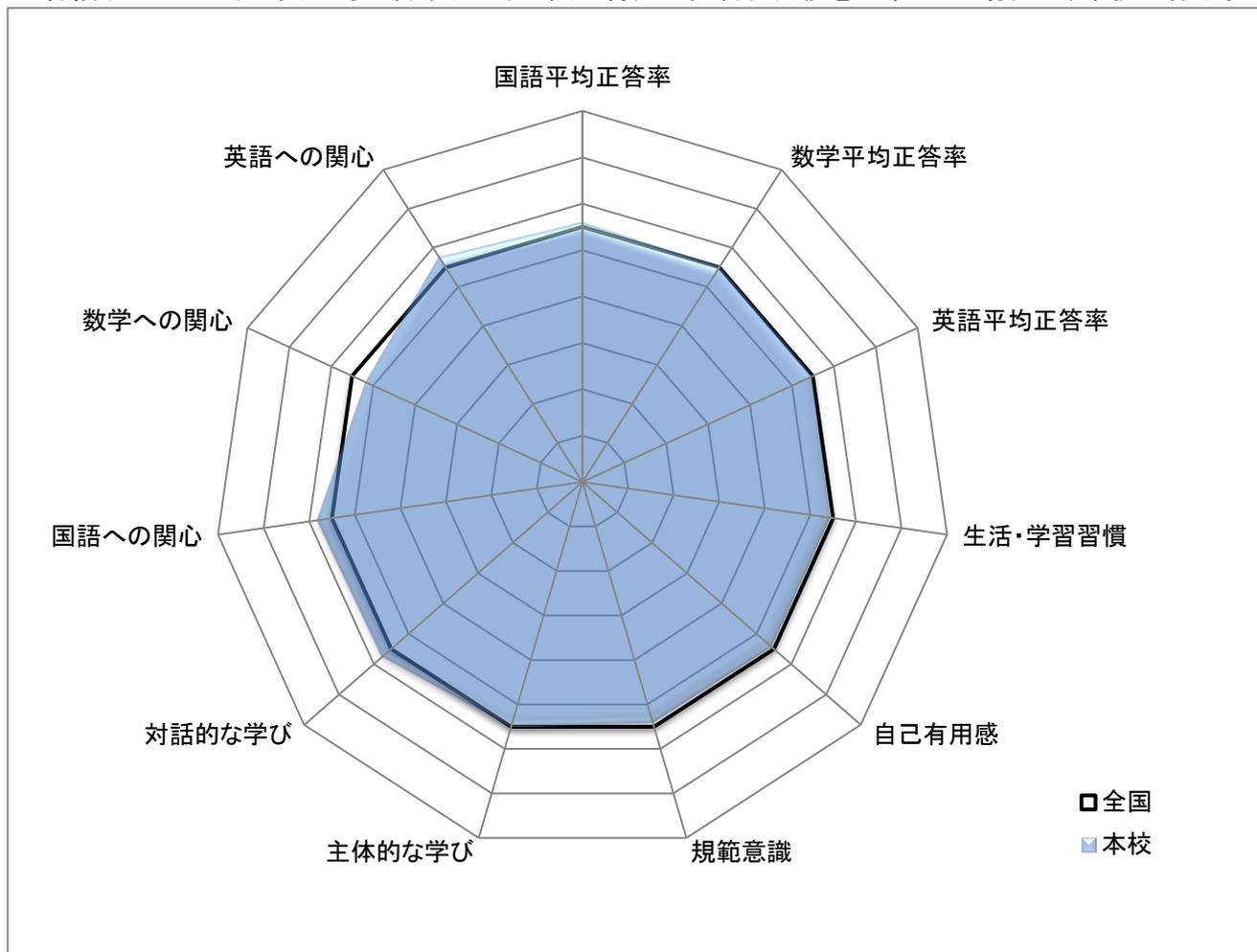


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】「関心」が高く真面目に取り組む姿勢の生徒が多い。選択式の問題は比較的正答率が高いが、短答式になると無回答が増加した。
 【数学】全国の平均正答率と同程度の結果となった。しかし学習内容が定着していない領域もある。また、数学への関心の結果が全国平均よりも下回る結果となった。数学への関心がありえない生徒について学習が定着するように支援を行っていく必要がある。
 【英語】「聞くこと」の活動は授業の帯活動として1年次から取り組んでおり、「話すこと」の活動と共に積極的に取り組む生徒が多く、全国平均を上回った。一方で、英語に苦手意識のある生徒の中に、「書くこと」への抵抗感をもつ生徒が比較的多く、記述式の問題になると正解率が低い結果となった。

《授業改善のポイント》

【国語】国語への関心は全国と比べてとても高いので、引き続き生徒たちの興味・関心を大切に、さらに「文章力」を高めるためにプリント型授業を取り入れ、短答式にも慣れさせていく。
 【数学】単元の基本的事項を復習し、既習事項を活用した新しい単元の学習を行う。また、数学への関心がありえない生徒もいるので、少人数授業の特性を生かして、習熟度に応じて、問題解決的な学習を単元の導入で取り入れていく。
 【英語】「英語の大切さ」を意識している生徒が多いので、生徒の意欲を引き出しながら、授業の中で、「話すこと」や「聞くこと」の活動の後に文の形で「書くこと」の活動につなげ、くり返し学習することで定着を図っていく。

《チャートの特徴》

- ・全体を通して全国平均と同程度の結果となった。学年全体としては場面に応じて「対話的な学び」の取り組みを取り入れたことがこのような結果につながったと考えられる。
- ・数学への関心が全国平均を下回る結果となった。昨年度、習熟度があまり到達していない生徒に対しての支援が不足していたところもある。今年度はそのような生徒に対して補習授業や自習室等で支援を行っている。
- ・英語では、全体的には全国平均と同程度の結果となったが、領域別に詳しく見ると、アンバランスになっているので、全体として学習が不十分だと思われる領域を授業で補充し、生徒が自信をもって活動に取り組めるよう支援していく。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習の充実化に向けての支援を行う。
- ・自分の将来のために学習が大切であることをあらためて生徒が気づくよう「地域ふれあい面接」などの協力を得る。
- ・学生ボランティアを活用しながら自習室を設置する。